
広島県における 中高一貫教育の在り方について

平成25年8月19日
広島県

目指すべき方向

- ・ 本県高等学校においては、知識基盤社会の到来、社会・経済のグローバル化の進展、少子・高齢化、環境問題など、現代社会における様々な課題に対応し、社会の持続的な発展に寄与する人材を育成する。
- ・ 中高一貫教育校においては、グローバル社会を牽引するリーダーを育成する。

■ 中高一貫教育校とは

中高一貫教育校は、中等教育の多様化を一層推進し、生徒や保護者の学校選択の幅を広げるため、平成11年に制度化された学校である。

◆ 中高一貫教育校の利点

- ・ 入学試験の影響を受けず、6年間の計画的・継続的なカリキュラムの編成により一貫した教育指導が展開できる。

◆ 中高一貫教育校の3つの形態

- ・ **中等教育学校**
一つの学校として、6年間一体的に中高一貫教育を行う。
- ・ **併設型の中学校・高等学校**
同一の設置者による中学校と高等学校を設置し、高等学校からの入学が可能な形態である。
- ・ **連携型の中学校・高等学校**
市町村立中学校と都道府県立高等学校など、異なる設置者間でも実施可能な形態である。

■ 県立広島中学校・高等学校の概要①

◆ 沿革

- ・ 平成16年に広島県立で初の併設型中高一貫教育校として、また県の教育改革を進めていく上でのリーディングスクールとして東広島市高屋町に開校（入学定員は中学校4クラス・高等学校6クラス）
- ・ 建設費用は約70億円

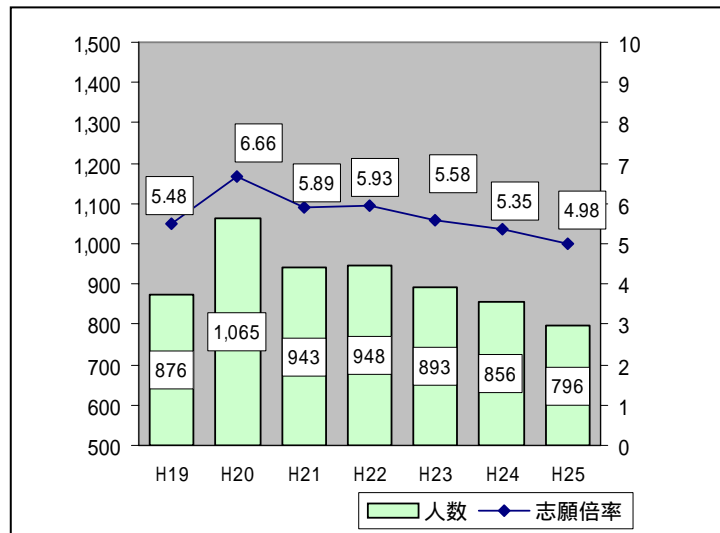
◆ 特色ある教育活動

- ・ 論理的思考力・表現力を身に付けるため、「ことばの教育」に取り組む。さらに中学校では教育課程特例校の指定を受け、必修教科「ことば科」を開設
- ・ 伝統文化の継承として、体育の授業に弓道や音楽の授業に箏や和太鼓を取り入れるなど、6年間で日本の伝統や文化を学習
- ・ 大学教育への円滑な接続として、「経済学入門」や「物理探究」などの科目を開設
- ・ 寄宿舎を利用して、夜間に広大大学院生からマンツーマンの指導を受けることができる「スクールサポーター」を実施

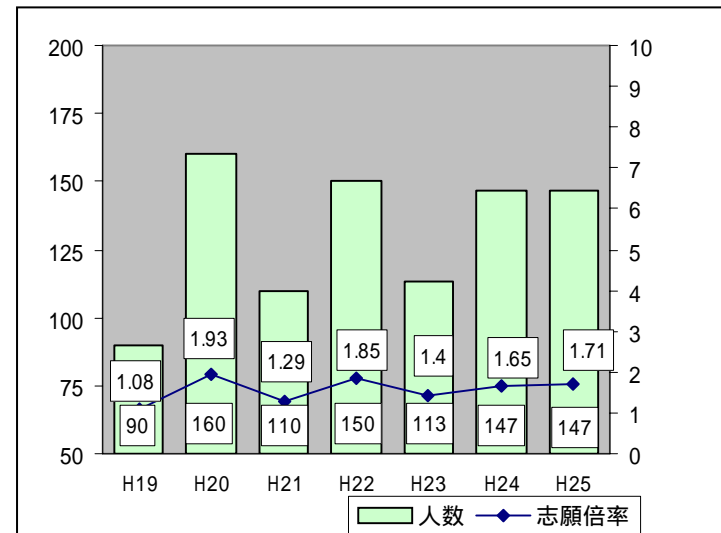
■ 県立広島中学校・高等学校の概要②

◆ 志願倍率等

➤ 広島中学校の志願倍率等



➤ 広島高等学校の志願倍率等

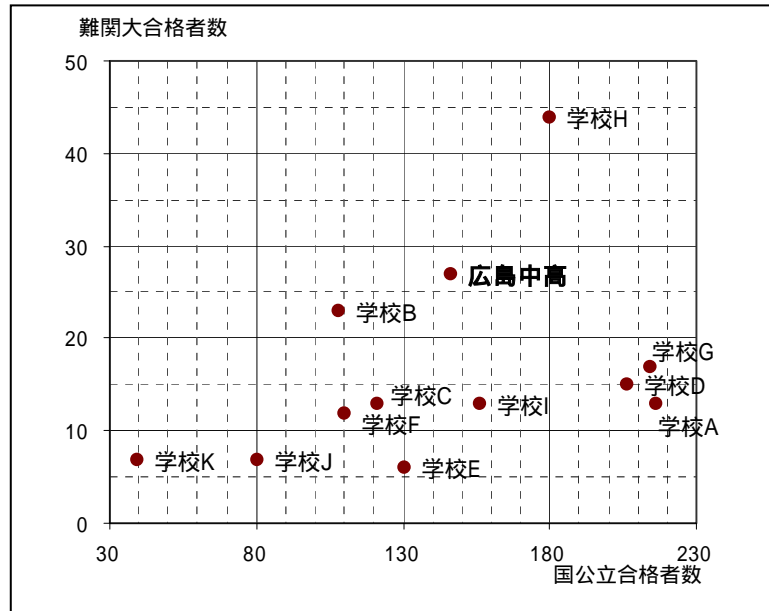


- ・ 中学校の志願倍率は、例年5倍を超え、依然として高いニーズがあるといえる。
- ・ 高校も公立学校の平均倍率が1.21倍であることから考えると、高い倍率にあるといえる。

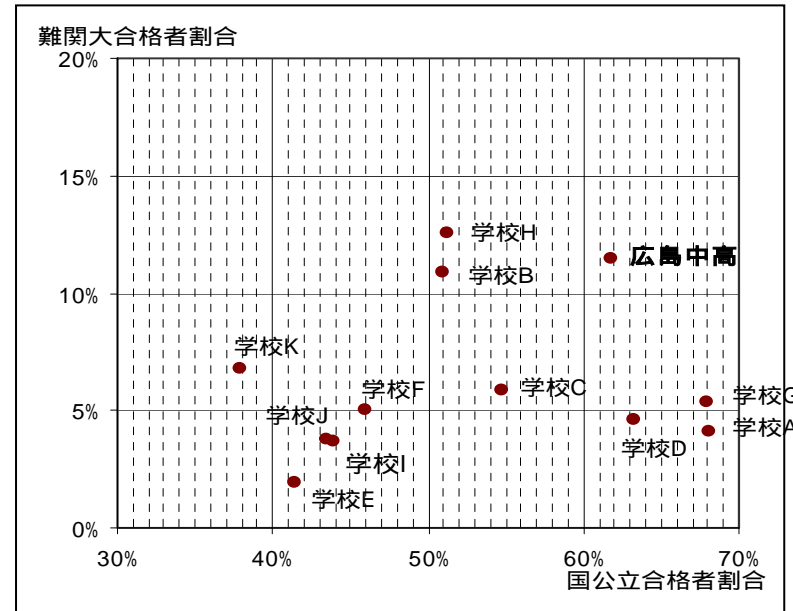
■ 県立広島中学校・高等学校の概要③

◆ 県内公立学校の難関大学現役合格者数とその割合（H25）

➤ 現役合格者数



➤ 卒業者数に占める合格者数の割合



※難関大学：北海道，東北，筑波，東京，東京工業，一橋，名古屋，京都，大阪，神戸，九州の11校

（出典） 高校教育指導課，各校HP

・ 広島中学校・高等学校は，国公立合格者及び難関大学の合格者を多く輩出している。また，卒業者に占めるそれぞれの合格者の割合も，高い数値を出している。

■中高一貫教育校の必要性について

◆社会が求める人材

→世界で活躍できるグローバル人材（平成24. 6 グローバル人材育成推進会議）

○グローバル人材の概念を整理すると次の要素が含まれる

要素1：語学力・コミュニケーション能力

要素2：主体性・積極性，チャレンジ精神，協調性・柔軟性，責任感・使命感

要素3：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

◆広島県における今後の高等学校教育の在り方を検討する 協議会最終報告（平成25. 3）

- ・ 県立広島中高はグローバル化に対応した教育への満足度や進学実績の目標値を達成するなど，生徒，保護者の期待に応じており，中山間地域も含め県内他の地域から設置を求める声がある。
- ・ 中高一貫教育校の新たな設置について，県内各地域の実情などを考慮しつつ，これまでの取組や成果を生かしながら，検討する必要がある。

■考えられる中高一貫教育校のモデルパターン

グローバルリーダー 育成型

- ・ グローバル社会を牽引するリーダーを育成

広島中高型

- ・ 広島中高の成果を県内に広める

地域密着型

- ・ 地域の自然や伝統文化を生かした6年間一貫教育を実施
- ・ 地域の振興にも寄与

※ 本県の実績や全国の事例を参考にすると、上記の3つのモデルパターンが考えられる。

※ 今回のテーマは、第3回経済財政会議のテーマ「グローバル人材の育成」を踏まえ、グローバルリーダー育成型に焦点を当てた内容とする。（なお、広島中高型・地域密着型については別途検討を進める。）

【論点】

◆グローバル社会を牽引する人材を育成するために、
広島県にはどのような中高一貫教育校が必要か。

- ① グローバルリーダーに求められるコンピテンシー
- ② コンピテンシーを身に付けさせるための仕組み
- ③ 仕組みを実践できる人材
- ④ 生徒募集の範囲（広島県内か，全国か）

論点① グローバルリーダーに求められるコンピテンシー

コンピテンシーとそれを身に付けさせる仕組みは表裏一体の関係にあることから、グローバルリーダーを育成する仕組みの先進事例を参考にすると、求められるコンピテンシーについて、概ね次のような仮説が導かれるのではないかと。

◆ **グローバルリーダーとは** ~ グローバル化した社会において、経済活動を始めとする様々な活動の中の第一線で活躍できる人材

➤ **グローバルリーダーに求められるコンピテンシーとは？**

(グローバルリーダー育成プログラムの先進事例(次ページ参照)から導かれる仮説)

- ① ハイレベルな論理的思考力・問題解決力
- ② 実体験に基づく確かな見識・幅広い教養
- ③ 社会性、自律性、ハイレベルなコミュニケーション能力

行動特性
の明確化

《参考》 グローバル人材に求められるコンピテンシー (※ 現在、教育委員会では、次の能力を体系的に育成することを目指している)

校 種		小学校	中学校	高等学校
領域	グローバル化に対応するために必要な資質・能力	グローバル人材としての成長		
		素地を育む	基礎を培う	実践力を養う
力の コミュニケーション	外国語の運用能力	・外国語に親しみ、外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知る。(多様な言語に触れる)	・初歩的な外国語(英語)を用いて、コミュニケーションを図ることができる。	・外国語を用いて、自分の考えを論理的に主張し、他者と議論することができる。 ・外国人を相手に、場に応じた適切に対話をして意思疎通を図ることができる。
	コミュニケーション能力	・自分の意見や気持ちを相手に分かりやすく伝え、積極的にコミュニケーションを図ることができる。	・立場や考え方の異なる人々を理解するとともに、積極的にコミュニケーションを図ることができる。	・立場や考え方の異なる人々を理解するとともに、相手を尊重しながら、場に応じた適切なコミュニケーションを図ることができる。
ディ ン テ ィ イ	異文化に対する理解	・世界中には様々な国があり、それぞれの文化に違いがあることを知る。	・他国の文化や価値観についての関心を高め、我が国の文化との違いを理解する。	・他国や地域の異なる文化について、共通性と異質性があることを理解するとともに、違いを個性として尊重する態度をもつ。
	日本人としてのアイデンティティ	・郷土広島市の歴史や文化を学び、理解するとともに、これらを愛する態度を養う。	・郷土広島と我が国の歴史や文化、伝統についての理解を深め、将来にわたって継承し発展させようとする志をもつ。	・我が国の歴史や文化、伝統についての理解をより深め、日本人としての自覚や誇りをもって、国際社会で主体的に生きようとする態度をもつ。
造 る 力	チャレンジ精神	・ものごとに進んで取り組み、自分のことは自分で解決しようとする。	・学校や地域の課題について、自分なりに考え提案し、解決しようとする。	・様々な考え方もつ人々が行動しても、問題が解決に向かうようなシステムの構築に向け、主体的に行動することができる。
	協調性・柔軟性	・自分とは異なるものの見方や考え方があることを知り、理解しようとする。	・自分とは異なるものの見方や考え方を理解し、尊重する。	・多様な価値観、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々とも協力・協働しながら、共に生きていこうとする態度をもつ。

論点② コンピテンシーを身に付けさせるための仕組み

リーダー育成プログラムについては、中高一貫教育を前提として、指導言語や教授法、課外活動、寮の活用など、現行の仕組みからの大幅な見直しが必要。見直しに当たっては、大学入試(保護者ニーズ)との関係も踏まえた検討が必要。

◆ グローバルリーダー育成プログラムの先進事例（現状とのギャップ）

区分	県立広島中・高等学校	海陽中等教育学校	イートン校	立命館宇治中・高等学校 (IBコース)	ISAK (IB全校導入)	
教育内容	教育期間	6年間(一貫)	6年間(一貫)	5年間(一貫)	6年間(一貫)	3年間
	学習進度 (受験対応)	-	4年間～中高課程 2年間～受験対策	-	4年間～中高課程 2年間～バカロレアDP	- 1条校～国内大学も視野
	指導体制	(1クラス40人)	少人数・チューター制 (1クラス20人)	少人数・チューター制 (1クラス10人)	少人数制 (IBは1クラス最大25名)	
	指導言語	日本語	日本語	英語	英語	
	授業方式	講義形式 (英数国は標準の1.7倍)	講義形式 (英数国は標準の1.8倍)	アクティブラーニング (議論形式)	アクティブラーニング, 探究・批判型	
	特徴的な取組	・中学校～「ことば科」必修 ・体育～「弓道」 ・音楽～「琴」「和太鼓」	正規授業以外に 演習の時間を設置	スポーツ・演劇・音楽・美術・ 工芸・ディベート・コンサート等 毎日、放課後と夜に実施	課題論文(最低40時間) 知識の理論(最低100時間) 創造性(芸術・演劇等), スポーツ, 奉仕活動(週4コマ)	
	主体的な キャリア形成	能・狂言・音楽など、本物に 触れるための体験活動	国内トップクラスの 著名人による講義等	英国トップクラスの 著名人による講義等	著名人や、 現職の校長による講義等	
寮	任意(入寮約1割) ・広大院生が夜間学習補助	全寮制 ・1ハウス60人(異年齢集団) ・ハウスマスター(企業派遣)に よる学習・生活サポート ・2時間の夜間学習	全寮制 ・1ハウス50人(各学年10人) ・異年齢の集団生活 ・最上級生による秩序維持 ・ハウス対抗マッチ	任意(入寮約1割)	全寮制	
留学制度	留学プログラムあり (枠; 長期1名, 短期5名)	留学プログラムあり (枠; 長期なし, 短期数名)	-		学内で多様性確保	
生徒の評価	ペーパーテスト中心	ペーパーテスト中心	レポート, 授業での言動, 研究姿勢, ボランティア等	内部(学校)評価; ウェイト20% 外部(IB)評価; ウェイト80%		
大学入試 (入学資格)	センター試験・二次試験	センター試験・二次試験	4・5年次の到達度テスト + 学校での評価	卒業試験(バカロレア統一試験)の合格者に 世界各国で認められる大学入学資格を付与 45点満～40点でハーバード大		

保護者
ニーズ

論点③ 仕組みを実践できる人材

海外トップ大学への進学を目指す生徒を指導できるハイレベルな教員を確保し、維持していくためには、採用方法・研修・給与等の抜本的な見直しが必要。

	県内型	国内型		グローバル型	
区分	県立広島中・高等学校	海陽中等教育学校	イートン校	立命館宇治中・高等学校 (IBコース)	ISAK (IB全校導入)
1. 教員採用方法	全県一括	個別採用 (全国)	個別採用 (全英)	海外からのスカウト	
採用者の状況	大卒中心	難関国立大の 修士・博士卒中心	オックスフォード・ケンブリッジ 修士卒中心	不明	世界中の各教科分野 トップクラスの教員
	多様性	外国人教員1名 " 講師1名	外国人教員1名 " 講師3名	-	外国人教員; 約2割 ほぼ全員が外国人
2. 教員研修の状況	法定研修・専門研修 (他の県立高校と同じ)	なし (自主研究等)	なし (他校教員との討論等)	IBO主催の研修会(年3回程度・海外で開催) (DP承認審査の対象に教員研修状況も含まれる)	
3. 教員の給与	公務員級	公務員より高額	相当程度高額	相当程度高額(世界中でIB教員の取り合い)	
参考 進学実績	海外大学: なし 国公立大学: 146人	海外大学: 15人 国公立大学: 34人	オックスフォード・ケンブリッジ 計78人	海外大学: 56人 国公立大学: 3人	(H26.9開校予定)
参考 帰国生の状況	0人	全生徒の約1割 (約50人)	-	全生徒の約2割 (約270人)	-
教員以外のスタッフ		民間企業の若手職員 (フロアマスター)	生徒指導・教育相談等 の専門スタッフ	不明	未定

論点④ 生徒募集の範囲（広島県内か、全国か）

日本を代表するグローバルリーダーを育成するためには、帰国生を含め、全国から多様な人材を受け入れ、より高いレベルで互いに切磋琢磨できる教育環境を整備する必要があるのではないかと。

その結果、本県の重要ミッションである「県全体の底上げ」という点で、一層の飛躍が期待できるのではないかと。

前提として県内の人材育成につながる（他校へ還元できる）仕組みの検討が必要（例：県内既存校との合同研修会・学習合宿など）

〔背景〕これまでの教育環境の整備等

- ✓ 生徒や保護者の幅広い教育ニーズに対応するため、本県の教育改革の一環として通学区域を拡大し、平成18年度から全県一円とした。
- ✓ また、平成12年度から導入した指定校方式の学力向上対策により、拠点校に引っ張られる形で県全体の学力が飛躍的に向上したが、現在は、伸び悩みの状況にあり、更なる飛躍を目指していく必要がある。
- ✓ 一方で、近年の社会経済環境の変化に鑑み、国を挙げて、グローバル人材（リーダー）の育成が急務となっている。

◆ 持続可能な仕組みとするためには、他の先進事例を参考にしつつ、教育プログラムの内容や生徒・保護者の経済的負担など、十分に吟味していく必要があるのではないかと

	広島中学・高等学校	海陽中等教育学校	イートン校	ISAK
教育 コンセプト	県立高校のリーディングスクールとして開校 グローバル化時代に活躍することのできる人材の育成	将来の日本を牽引する、明るく 希望に満ちた人材の育成	真の「英国紳士」の育成	アジア太平洋地域そしてグローバル社会のために、新たなフロンティアを創り出し変革を起こせるリーダーを育成
募集設計	広島県内	全 国 (帰国生向けに海外入試実施)	英 国 内	アジアを中心とする全世界
特記事項	-	開校4年目で大幅な定員割れ 全経費が無償の「特別給費生入試」 (20人枠)を導入し、定員を回復	生徒の5～7%は他国から受入	「全額奨学金」又は「部分奨学金」 を全生徒の2～3割に給付 平成26年9月開校予定
《参考》学費	0円/年 (寮費42万円/年)	約280万円/年 (うち寮費160万円/年)	約480万円/年 (寮費込)	約350万円/年 (うち寮費100万円/年)

《補足資料①》イートン校の概要

(英国／私立)

◆ 500年以上の歴史を誇る寄宿学校で、真の「英国紳士」を育成

～規律と自主性を重んじる少人数制の英才教育

設立経緯・変遷

【設立】1440年

【創設者】国王ヘンリー6世

【目的】70人の優秀だが貧しい子どもに最高の教育を無料で受けさせる

【変遷】貴族や大富豪の子孫が仲間入り～王侯・貴族の寄附により発展

【その他】現校長トニー・リトルの言葉

「もし卓越した学校を目指すことがエリート主義だというなら、私はエリート主義に賛成です。
イートンとは、一つの生き方なのですから…」

学校の概要

【概要】5年制の中高一貫校（前期3年間・後期2年間）

【生徒数】約1,300人（1学年；約220人）

【全寮制】キングス・スカラー（国王奨学生）ハウスのほか、
一般用の24ハウス（計25ハウス）で共同生活

【学費】年間約480万円（英国国民の平均年間所得に相当）

【施設】30のスポーツ施設、演劇用の劇場、デザイン研究所、
造形美術のアトリエ、9カ国語を学べる研究室など

卒業生

◆ 現在も各界で活躍する卒業生 ～ 約1万5,000人

◆ 政府や軍、金融機関、その他民間企業等の指導層・リーダー層に多い

【首相】歴代の英国首相19人（デービット・キャメロン現首相など）

【皇族】ウィリアム王子、ヘンリー王子など

【政治家】ロンドン市長ボリス・ジョンソンほか多数

【その他】新聞社の社長、経営者、作家、ハリウッドスターなど多数

入学方法

【過去】ハウスリスト（各ハウスへの入寮希望）から校長が選考
・25のハウスごとに500年の伝統と歴史（カラー）がある
・子どもが生まれるとすぐ希望するハウスのリストに応募

【現在】志願者全員を平等に審査（10年前に改革）
・全英学力試験の点数＋学校の成績＋適正検査＋口頭試問
～スポーツ・アート・寮生活に対する積極性なども評価

カリキュラム等の特色

【授業形態】少人数制の習熟度別授業

1～3年生；1クラス20人

4～5年生；1クラス10人

【チューター制】各教員が6～7人の生徒を担当

週に1～2回，各生徒の進捗状況に応じて指導

【授業時数】週35時限（1時限40分授業），莫大な宿題

放課後の課外活動や夜の行事を通じた人格形成

	月	火	水	木	金	土
授業	7コマ	5コマ	7コマ	5コマ	7コマ	4コマ
放課後	課外活動(スポーツ, 演劇, 音楽, 美術, 工芸など)					ハウス対抗 マッチ
夜	ディベート, 演劇鑑賞, コンサートのいずれかに参加					

※テレビや遊ぶ時間はほとんどない～学期末には疲労困憊状態

【カリキュラム】500年の伝統に培われた独自カリキュラム

※通常の学校ではナショナルカリキュラムが義務付け
(日本でいう学習指導要領)

1～3年：国語・算数・ラテン語等の基礎科目＋2外国語を選択

※1年生は演劇と工芸が必修

4～5年：古典・哲学・宗教学・美術史等の専門科目中心（探究型）

※各学年末に到達度テスト実施 ⇒ 大学入試に反映

【その他】イートンOBの著名人との交流

・生徒が大臣や作家等に講演を依頼することも可
～生徒たちに自信を与え，社会に出ても物怖じしない

全寮制（ハウス）

◆それぞれに伝統と歴史のある25のハウス

・各ハウス50人～各学年10人ずつ（異年齢の集団生活）

・最上級生がハウスの秩序維持（内部規律の確保）

・強力なパストラルケア（情緒的成熟や精神的豊かさの醸成）

◆ハウスマスター（寮長），寮母，専属スタッフ等を配置

◆年間通してのハウス対抗マッチ（スポーツ，演劇，コンサート，合唱等）が生徒の文化的・社会的分別の理解を促進

生徒の評価方法

◆ 毎学期末のレポート，授業での言動，研究姿勢，ボランティア等

◆ 4年，5年の学年末に到達度テスト実施（大学入試に反映）

《参考》英国の大学入試

1次試験～到達度テストの点数＋学校での評価（成績）

2次試験～面接等

進路

◆ 9割～大学進学（3人に1人がオックスフォード大・ケンブリッジ大）

1割～軍隊又は就職

教員

◆ 修士取得者，オックスフォード大・ケンブリッジ大の出身者が多い

◆ 生徒指導や教育相談の対応のため，別に専門スタッフを配置

《補足資料②》海陽中等教育学校の概要

(愛知県／私立)

◆ 次代を担うリーダーを全寮制によって育てる ～「基礎学力」と「人間力」をバランスよく育成する全人教育の実現

カリキュラム等の特色	全寮制	教員の多様性	生徒の多様性														
<p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数の習熟度別授業（1クラス約20人） ・定期試験後にクラスを入替（切磋琢磨） <p>【チューター制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が各10～20人の生徒を受け持つ ・担当生徒の成績を全て把握 （勉強から生活まで何でも相談に乗る） <p>【カリキュラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中2までに中学の教育課程を修了 ・高1までに高校の教育課程を修了 ・英数国の授業時間数は標準の約1.8倍 【h：単位時間 1単位時間＝50分】 <table border="1" data-bbox="197 1007 703 1209"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">年間授業時間数</th> <th rowspan="2">差</th> </tr> <tr> <th>標準</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全教科</td> <td>約1,350h (週39h)</td> <td>約1,050h (週30h)</td> <td>約1.3倍</td> </tr> <tr> <td>うち英数国</td> <td>約630h (週18h)</td> <td>約350h (週10h)</td> <td>約1.8倍</td> </tr> </tbody> </table>	区分	年間授業時間数		差	標準		全教科	約1,350h (週39h)	約1,050h (週30h)	約1.3倍	うち英数国	約630h (週18h)	約350h (週10h)	約1.8倍	<ul style="list-style-type: none"> ◆豊富で濃密な人間関係が社会性を養い、目的意識や使命感を醸成 ◆高いレベルのコミュニケーション能力の育成 ◆社会人との生活によるキャリア形成 <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4階建てハウスが全12棟（A～L） ・2～4階に各20人が一緒に生活 ・午後8時～10時は夜間学習（10時半消灯） <p>【ハウスマスター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各棟に1人（ベテラン教員） <p>【フロアマスター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各フロアに1人（約30人） ・企業から派遣された若手社員 <p>【国際化推進ハウス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰国生（約1割）のいるハウス ・国際経験のあるハウスマスターやフロアマスターが担当 	<p>【校長】</p> <p>初代：伊豆山健夫 （東大教授を経て開成中高の校長）</p> <p>現在：中島尚正 （東京大学名誉教授）</p> <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公・私立中高一貫校の元教員や難関国立大のマスター又はドクター修了者 （幅広い社会人経験や海外経験を持つスタッフ多数） <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ教員1名、ネイティブ講師3名 	<p>【募集範囲】 全国</p> <p>【出身地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海65% （愛知50%） ・関東22% ・関西 8% <p>※32都道府県</p> <p>【帰国生】 約1割</p>
区分		年間授業時間数			差												
	標準																
全教科	約1,350h (週39h)	約1,050h (週30h)	約1.3倍														
うち英数国	約630h (週18h)	約350h (週10h)	約1.8倍														
<p>【その他の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語～中1から古典を週2コマ ・数学～2コマ連続授業（熟考） ・英語～ICT環境充実 ネイティブによる授業 など 		<p>【キャリア教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各界のリーダー等を招いた特別講演 ・フロアマスター派遣企業等での就業体験 ・フロアマスターとの共同生活によるキャリア形成 	<p>【海外交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イートン校、ハロウ校への体験入学 （中3の夏に2～3週間） 														

《補足資料③》県立広島中・高等学校の概要

(広島県／公立)

◆ グローバル化時代において活躍することのできる人材を育成

～全人教育を実現し、本県教育を先導する学校

カリキュラム等の特色

【授業形態】

- ・英語、数学では習熟度別のクラス編成を実施

【カリキュラム】

- ・6年間を通じて論理的な思考力・表現力を身に付けさせるため、中学校では「ことば科」を必修科目として開設（年間60時間履修）
- ・高校1年で学ぶ「数学Ⅰ」を中学校で履修
- ・日本古来の伝統的な文化・音楽を学ぶため、体育の授業に「弓」、音楽の授業に「箏」や「和太鼓」を取り入れる

【h：単位時間 1単位時間＝50分】

区分	年間授業時間数		差
		標準	
全教科	約1,150h (週33h)	約1,050h (週30h)	約1.1倍
うち 英数国	約580 (週17h)	約350h (週10h)	約1.7倍

【その他の特色】

- ・教育課程の全教科にわたって「論理的な思考力・表現力」を身に付けさせるため教育活動を展開
- ・高校2年からは習熟度別のクラス編成を実施
- ・卒業論文作成の義務化

寮（全寮制ではない）

- ◆寮を活用し、社会規範、学習習慣の定着を図る
- ◆寄宿舎入寮生には、「スクールサポーター」と呼ばれる先生（広島大学院生）からマンツーマンでの指導を受けることができる
- ◆全校生徒を対象に短期入寮体験を実施

【概要】

- ・入寮生143人

評価の方法

- ・年5回の定期考査（約7割）、授業での取組姿勢・提出物（約3割）で評価

キャリア教育

- ・計画的な特別講座を土曜日や長期休業中に実施
- ・将来の目標を早期に具体化するため、職業インタビューや数日間の職場体験活動を実施

教員

- ・ネイティブ教員1名
- ・ネイティブ講師1名

海外交流

- ・高校生希望者には姉妹校（アメリカ）への留学を実施
- ・中高校生の希望者には、カナダへの語学研修プログラムを実施

《補足資料④》立命館宇治中・高等学校の概要

(京都府／私立)

◆国際バカロレアのDP (ディプロマプログラム) で未来のグローバルリーダーを育成

～多くのネイティブ教員, 帰国生, 留学生が学ぶ国際的な雰囲気の中で国際教育を実施

カリキュラム等の特色	教員	寮 (全寮制ではない)	海外交流														
<p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な教科は少人数教育を実施 ・英語は習熟度授業 (4つのコース) を実施 <p>【カリキュラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IB・IMコースではイマージョン教育を実施 ・高校1年までに必修科目の大半を履修 (IB・IMコース) ・日本の伝統文化である能楽を学ぶため講座を開設 ・中学校では農業体験, スポーツ体験, 文化・芸術体験などの体験学習やキャリア教育を重視 <p style="text-align: center;">【h: 単位時間 1 単位時間=50分】</p> <table border="1" data-bbox="237 991 781 1200"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">年間授業時間数</th> <th rowspan="2">差</th> </tr> <tr> <th></th> <th>標準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全教科</td> <td>約1,200h (週34h)</td> <td>約1,050h (週30h)</td> <td>約1.1倍</td> </tr> <tr> <td>うち 英数国</td> <td>約100h (週3h)</td> <td>約350h (週10h)</td> <td>約0.3倍</td> </tr> </tbody> </table> <p>【その他の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での英検準2級取得者約8割 ・情報化教育を推進 (全教室に電子白板設置) ・TOEFLの受験義務化 ・卒業論文作成の義務化 ・日本語を磨きたい生徒には補講を実施 	区分	年間授業時間数		差		標準	全教科	約1,200h (週34h)	約1,050h (週30h)	約1.1倍	うち 英数国	約100h (週3h)	約350h (週10h)	約0.3倍	<p>【校長】</p> <p>チャールズ・フォックス (元立命館大学教授)</p> <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ教員約30名 <p>【募集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ教員はHPで公募又は, 直接海外でスカウト 	<ul style="list-style-type: none"> ◆希望者に対しては入寮できる施設がある。 ◆人間的交流と文化創造の場と位置付け <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6階建て380人収容 ・約1/3が帰国生 	<ul style="list-style-type: none"> ・中3全員に2週間の海外研修 ・IMコースでは, 1年間の留学プログラムを実施 ・2, 3年を対象にそれぞれ2, 3週間の留学プログラムを実施 ・世界で開催される国際会議やイベントに参加できるプログラムを実施
区分		年間授業時間数			差												
		標準															
全教科	約1,200h (週34h)	約1,050h (週30h)	約1.1倍														
うち 英数国	約100h (週3h)	約350h (週10h)	約0.3倍														
	評価の方法	生徒の多様性	キャリア教育														
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考察が6割, 残りは, 授業での言動やレポートの評価による ・英語のみ定期考察の割合が4割 ・IBDPにおける評価は, 学校の内部評価は2割, IBOによる外部評価は8割 	<p>【募集範囲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国 <p>【帰国生・留学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約2割 	<ul style="list-style-type: none"> ・著名人や, 現職の校長, 卒業生などによる講演会や多様なキャリア企画を実施 ・土曜日には中学1・2年生を対象に20からなるプログラム講座を開設 														

《補足資料⑤》 I S A K (International School of Asia , Karuizawa) の概要

(長野県／私立)

◆新たなフロンティアを創り出し変革を起こせるリーダーを育成

～リーダーシップ・プログラム, デザイン教育, 全寮制, アウトドア教育を実践

平成26年9月開校予定
(秋入学)

<p style="text-align: center;">カリキュラム等の特色</p>	<p style="text-align: center;">全寮制</p>	
<p>【授業形態】 少人数制 ～ 1クラス10～18名 (1学年50名程度)</p> <p>【カリキュラム】 国際バカロレア (ディプロマ・プログラム) を軸に、世界トップクラスの教育者集団の英知を結集して、現在、カリキュラムを開発中</p> <p>【リーダーシップ・プログラム】 座学で理論を学び、自己分析を行った上で、実践を通して試行錯誤を繰り返し、一人一人固有のリーダーシップスタイルを修得</p> <p>【デザイン教育】 デザイン思考のメソッドを通して、物事を俯瞰する力と創造的に考える力を修得 ⇒ 将来、あらゆる場面で役立つ度胸と対応能力を育成</p> <p>【アウトドア教育】 軽井沢の豊かな自然の中で、自らを見つめ、自然を尊び、運動能力と精神力を高めながら、チームワークを養う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学力だけでなく人間性の面でも成長し、リーダーシップを発揮できる機会を提供 ◆ 様々な国籍や家庭の経済状況、強みや個性を持つ仲間が集い、教室を越えて切磋琢磨する場 ・各ハウス12名、アドバイザー&メンター制度あり 	
<p style="text-align: center;">教員の多様性</p>	<p style="text-align: center;">生徒の多様性</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各教科分野において高いレベルの知識を有し、指導力と人格に優れた人材のみを独自のネットワークを通じて厳選採用 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 生徒の約半数 ～アジア太平洋地域在住・出身者をはじめ、世界中から様々なバックグラウンドを持つ留学生を受入 	
<p style="text-align: center;">特記事項</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 全額奨学金又は部分奨学金を、20～30%の生徒に給付予定 ◆ 国際的教育機関ネットワーク (UWC) へ加盟予定 ～世界各国から選抜された高校生を受入れ、国際感覚豊かな人材の養成を目的とする教育機関 (世界13カ国に加盟校を持ち、120カ国以上にNational Committeeを持つ) 		

《補足資料⑥》 国際バカロレアとは(International Baccalaureate =IB)

- ◆ 国際的教育プログラムであり、年齢に応じて、PYP(3～12歳)、MYP(12～16歳)、DP(16～19歳)がある。
- ◆ 目的は、全人教育を通して主体性を持ちバランス感覚に優れた国際社会に貢献できる若者の育成。
- ◆ DP課程においては、卒業試験（バカロレア統一試験）に合格した生徒には、世界各国で認められる大学入学資格が付与される。
- ◆ IBの学習者像は、①探究する人 ②知識のある人 ③考える人 ④コミュニケーションできる人
⑤正義感のある人 ⑥心をひらく人 ⑦思いやりのある人 ⑧挑戦する人
⑨バランスのとれた人 ⑩振り返ることができる人

【IBDPカリキュラム】

単位h=60分

- ・ DPカリキュラムは、右の6つのグループにより構成される。
- ・ G 1からG 5までの科目を各1科目履修し、更に芸術又はG 1からG 5の中から1科目を選び、合計6科目を2年間履修する。
- ・ 各科目については、「高レベル」として3～4科目、それ以外の2～3科目を「標準レベル」として履修。（高レベル240時間、標準レベル150時間の履修が必要）
- ・ さらに、下の3つの課題は「コア必修」として、特に重要なプログラムとして位置づけられている。

【課題論文】

- ・ 学習している科目に関連した研究課題を設定し、自ら調査・研究を行い4,000語の論文としてまとめる。

【知識の理論】

- ・ 教科横断的に知識の本質や相互関連について考え、理解を深めるとともに、自国以外の文化の価値観についても認識し、国際理解を深める。研究内容をプレゼンテーションしたり、指定された課題から小論文を作成。

【創造性・活動・奉仕】

- ・ 教科学習以外の生活の重要性を認識し、芸術活動、スポーツ、奉仕活動に参加することが求められる。

グループ	履修教科・科目	必要時間数
第1 G	第1言語(文学)	240h/150h
第2 G	第2言語	240h/150h
第3 G	個人と社会 (歴史、経済学、哲学、心理学等)	240h/150h
第4 G	実験科学 (生物・化学・物理等)	240h/150h
第5 G	数学とコンピューター科学 (数学、コンピューター科学等)	240h/150h
第6 G	芸術 (美術、音楽、演劇等)又は選択科目	240h/150h

その他の課題	課題論文(4,000字)	40h以上
	知識の理論(プレゼンテーション)	100h以上
	創造性・活動・奉仕	150h以上

■ IBDPにおける評価方法

- ・ 学校による内部評価とIBOによる外部評価がある。内部評価は随時IBOに送られる。
- ・ IBOの試験官は内部評価を査定し、外部評価と合わせて総合的に最終評価を行う。
- ・ 最終得点に関係なくCASの必修時間をクリアしていないと資格を取得できない。
- ・ IB資格の取得要件は合計で28点以上。

		内部評価（ウェイト20%）	外部評価（ウェイト80%）	合計点数
評価する者		IBOの研修を受けたDP教員	IBO選任の主任試験官	
学 力		<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査（各科目数回） ・ 学内評価（授業での言動，宿題，レポートなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必修5科目＋選択1科目 	7点×6科目
その他の課題	EE	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題論文 必修時間40h 4,000語 	3点 EEとTOKは各々5段階評価。評価の組み合わせで点数が決まる（下図参照）
	TOK	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・ エッセイ 必修時間100h 1,600語 	
	CAS	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術，スポーツ活動，奉仕活動 必修時間150h 		

※ EE：課題論文 TOK：知識の理論 CAS：創造性・活動・奉仕

		EE				
		A	B	C	D	E
T O K	A	3	3	2	2	1
	B	3	2	1	1	0
	C	2	1	1	0	0
	D	2	1	0	0	0
	E	1	0	0	0	0

■国際バカロレア導入における課題

◆課題 1

- ・ 生徒の学習負担
生徒は学習指導要領の内容とともにDPを学ぶ必要がある

◆課題 2

- ・ 教員の養成と確保
IBOの理念や目的を十分理解して実践できる教員の養成と確保

◆課題 3

- ・ 行政，学校の負担
少人数での授業が前提であるので，教員の増員が求められる

◆課題 4

- ・ 生徒を受け入れる国内大学の態勢
DP資格取得者に対する入学条件での優遇措置（試験の免除など）

■立命館宇治中学・高等学校のカリキュラム例

◆1条校がDPの認定を受けるためには、高等学校教育課程の必履修科目を履修し、かつDPのプログラムを履修する必要がある。

◆DPプログラムを履修するには、プログラムのなかに学習指導要領が定める内容を補うなど、両方の内容を取り扱えるように教育課程を編成・実施することが必要。

【高等学校教育課程必履修教科】 単位h=50分

必履修教科	必要時間数
国語	140h
英語	105h
地歴公民	210h
理科	140h
数学	105h
芸術	70h
保健・体育	315h
家庭	70h
情報	70h
総合的な学習の時間	105h
HR	105h

+

【IBDPカリキュラム】

単位h=60分

グループ	履修教科・科目	必要時間数
第1G	第1言語(文学)	240h/150h
第2G	第2言語	240h/150h
第3G	個人と社会(歴史, 経済学, 哲学, 心理学等)	240h/150h
第4G	実験科学(生物・化学・物理等)	240h/150h
第5G	数学とコンピューター科学(数学, コンピューター科学等)	240h/150h
第6G	芸術(美術, 音楽, 演劇等)又は選択科目	240h/150h
その他	課題論文	40h以上
	知識の理論	100h以上
	創造性・活動・奉仕	150h以上

- ・高等学校教育課程の必履修教科は高校1年次で大半を履修させる。
- ・高校2年からはDPカリキュラムを履修させる。(文部科学省による教育課程特例校の指定が必須)

■高等学校教育課程必履修教科履修時期の比較

- ◆高校卒業までに必要な単位数は、普通科においては74単位以上。（1単位＝50分の授業を年35回）
- ◆上記の単位数のうち、約半分以上は、高等学校学習指導要領により指定されている教科・科目の時間数を履修する必要がある。
- ◆IBDPの認定を受けている立命館宇治では、他校に比べ、必履修教科の大半を高校1年次で履修させるカリキュラムとなっている。

必履修教科・科目		必履修教科履修時期		
		立命館宇治高校	海陽中等教育学校	広島高校
国語	国語総合	高1	高1	高1
英語	コミュニケーション英語	高1	高1	高1
地歴	世界史A, 又は世界史Bから1科目	高1	高1	高1・2
	日本史A, 日本史B, 地理A, 地理Bから1科目			
公民	現代社会, 又は倫理・政治経済			
理科	科学と人間生活, 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎及び地学基礎から2科目, 又は物理基礎, 化学基礎, 生物基礎及び地学基礎から3科目	高1	高1	高1
数学	数学I	高1	高1	高1
芸術	音楽I, 美術I, 工芸I, 書道Iから1科目	高1	高1	高1
保健・体育	体育及び保健	高1～3	高1～3	高1～3
家庭	家庭基礎, 家庭総合, 生活デザインから1科目	高1	高1	高1
情報	社会と情報及び情報の科学のから1科目	高1	高2	高2
総合的な学習の時間		高1・3	高2・3	高1～3
HR		高1～3	高1～3	高1～3

国際バカロレア日本語デュアルランゲージディプロマ(日本語DP)の導入 (Japanese Dual Language IB Diploma)

概要

- 国際バカロレア (IB) のディプロマは国際的に認められている大学入学資格。
- 自民党教育再生実行本部中間とりまとめ (H24.11.20) において、「国際バカロレアに日本語を追加し、国際スタンダードのもとでの海外留学の促進」と指摘。
- IBのDPの一部科目の授業と評価を日本語で実施するプログラムを開発・導入するとともに、導入に当たっての課題等を研究を行い、DPの普及を促進する。

経済, 歴史, 生物, 化学, EE, TOK, CAS

現状と課題

○DPでは、第一言語(母語)を除く科目を英語で教える必要

- ・英語で指導可能な教員(主に外国人)の確保
- ・多くの外国人教員は日本の教員免許を所持していないため、新たに日本の免許状を取得する必要があるため。

国際バカロレア (IB) の概要

- 国際バカロレアに認定校数は、141か国において3,488校
- DPの取得には、2年間の課程を経て、プログラム終了後の試験において、45点中24点以上を取得することが必要。
- 我が国でも、S54から大学入学に関し高等学校を卒業したものと同等以上の学力があると認められる者として指定。

日本語デュアルランゲージディプロマの導入

効果

○日本人教員による指導が容易に



○優秀な日本人教員の活用、人件費の抑制、特別免許状取得等の事務の軽減



○IBのディプロマプログラムの導入が容易に



○IB認定校の増加



○グローバル人材の育成

平成25年度予算案

○日本語DP開発経費
57,699千円

- ・科目別実施要領等の翻訳等

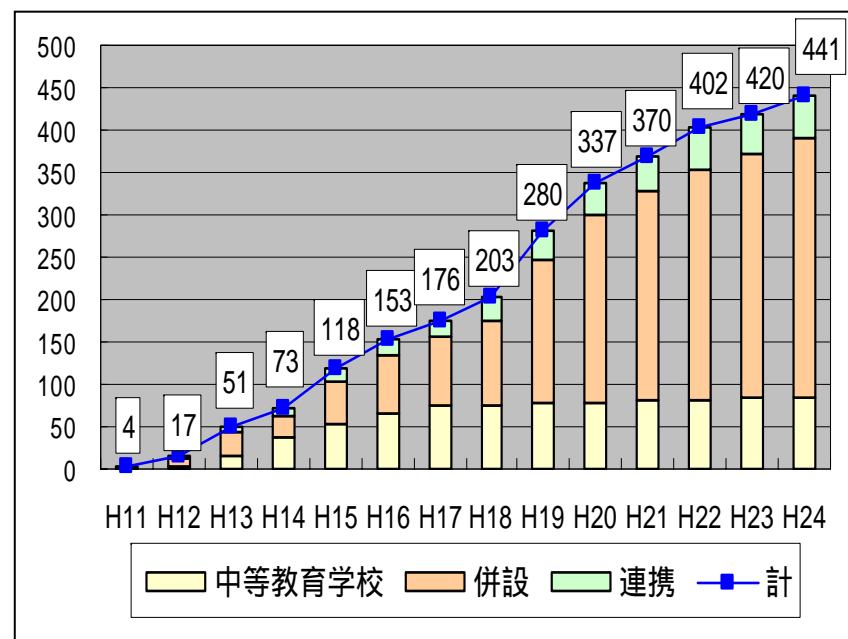


【参考資料】

- ◆全国，広島県の中高一貫教育校設置状況 P26
- ◆中高一貫教育校配置図（公立） P27
- ◆国立大学附属高等学校配置図 P28
- ◆私立高等学校配置図 P29
- ◆在り方検討協議会における中高一貫教育に関する議論 P30
- ◆学校教育法の一部を改正する法律案に対する附帯決議
平成10年5月22日衆議院文教委員会）（抄） P31
- ◆中高一貫教育の特色，成果 P32. 33
- ◆広島県における今後の高等学校教育の在り方を検討する協議会
委員名簿，審議経過 P34. 35
- ◆コンピテンシーとは P36. 37
- ◆グローバルリーダーを育成する教育実践校の事例 P38

■全国， 広島県の中高一貫教育校設置状況

➤ 全国の中高一貫教育校の設置推移



出典) 文部科学省「高等学校教育の改革に関する推進状況について」

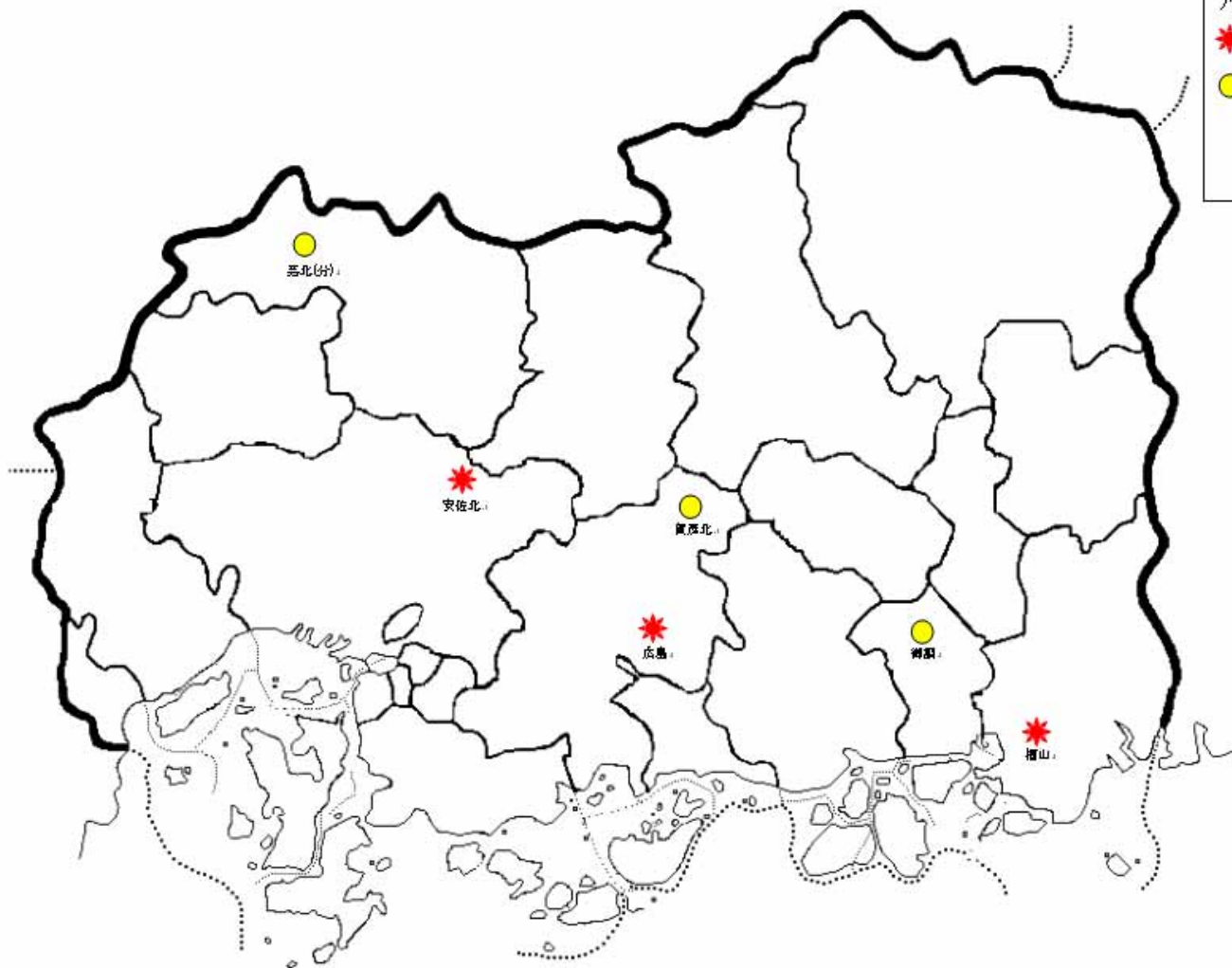
➤ 全国の設置状況

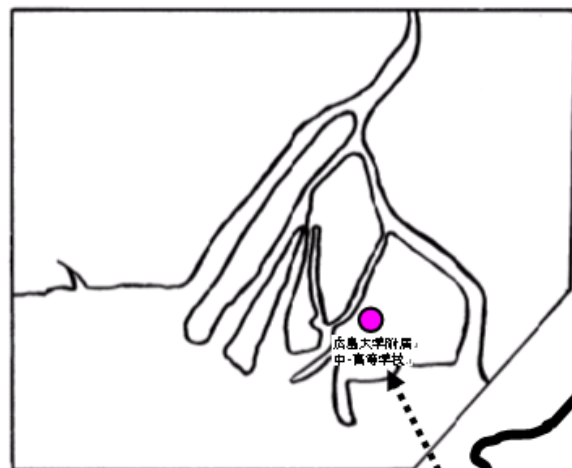
- ・ H11: 4校 → H24:441校
(国公立計)
- ・ 中等教育学校11%, 併設型70%,
連携型19%
- ・ 国立1%, 公立42%, 私立57%
- ・ 広島県の設置状況
併設型 7校 (公立 3, 私立 4 ※)
連携型 3校 (公立)

※広島県内の私立学校では中学校と高等学校の学校運営を一体化することにより、実質的に中高一貫教育を実施している。
(中学校と高等学校が併設されている学校は24校)

中高一貫教育校配置図（公立）

- 凡例
- 併設型中高一貫校
 - 連携型中高一貫校
（安佐北中高は平成 26 年度
入学生から中等教育学校）



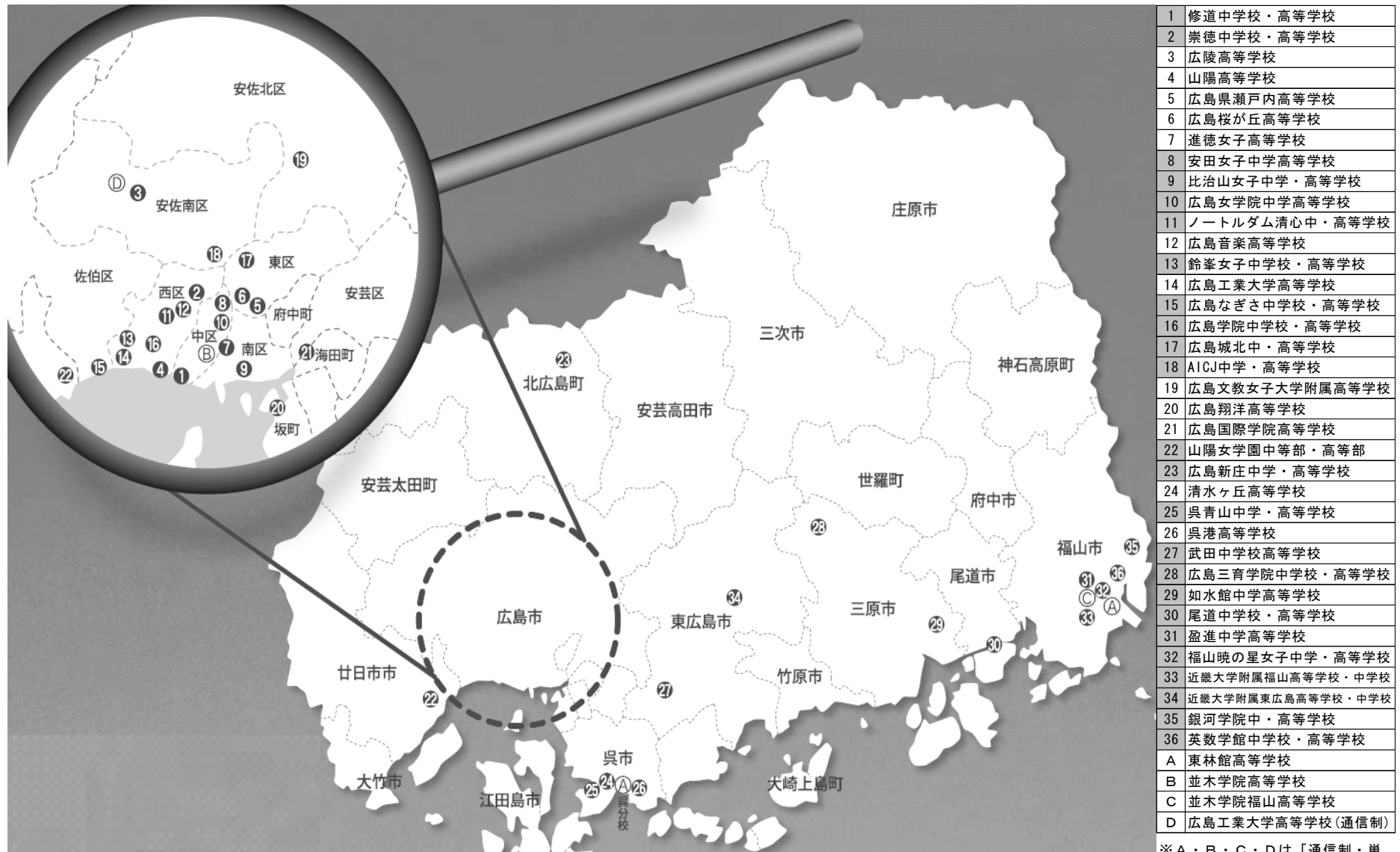


国立大学附属高等学校配置図（全日制課程）

【平成 24 年 5 月 1 日現在】



■私立高等学校配置図（全日制課程・通信制課程）



※A・B・C・Dは「通信制・単位制高校」です。
 ※番号に網掛けしている高校は中学校を併置している

■在り方検討協議会における中高一貫教育に関する議論

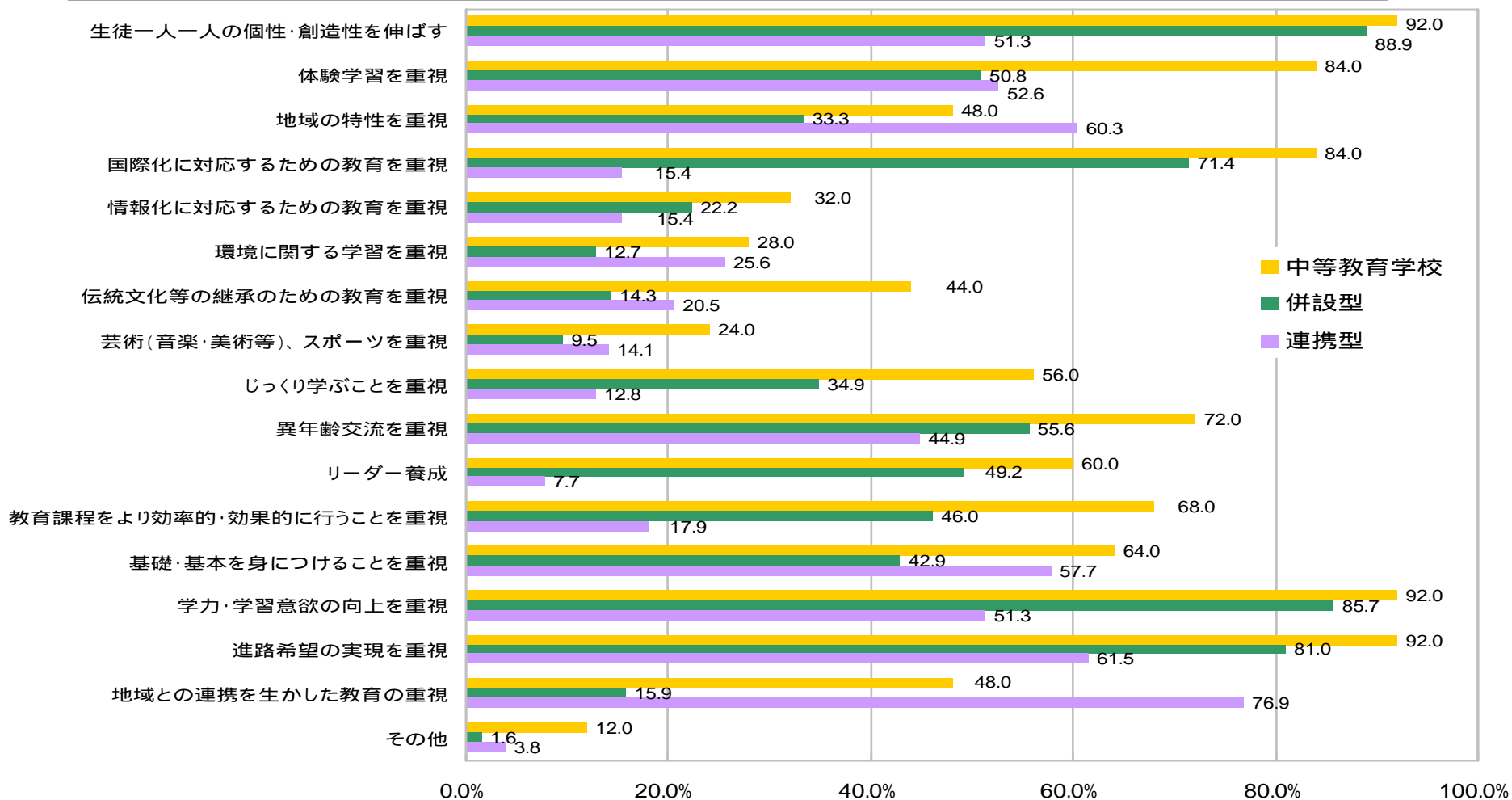
- ◆ 県立広島中・高等学校が一定の期待された成果を上げているということもあって、**県下の他の地域からも、この中高一貫教育校の設置を求める声が非常に高まっている。**
- ◆ 公立学校が中高一貫校を設置してもいいという法律が、平成10年に決定をされ、その附帯決議に、いわゆるエリート校をつくってはいけない、受験勉強の低年齢化をさせてはいけない、学力試験を課してはいけないといったものが出てきている。**しかしながら現実を考えると、いわゆるエリート校であろうし、受験勉強の低年齢化も招いているし、学力試験であろう試験を課しておられるのではないか**と思っている。
- ◆ （併設型中高一貫教育校の設置について、）私学とのすみ分けもあるし、特色を考えたときに、1校だからできること、これがそこらじゅうに新設校のようにできれば、県の財政もいろいろお金もかかるだろう。
今ある高校をリニューアルする形、あるいは併設の中高、近隣の学校との中高一貫的な連携教育、中高連携とか、今あるものをベースにつくるべきではないか。
- ◆ **中山間地域や島嶼部におけるその地域の特性を生かした、例えば産業に関わったりとか自然、あるいは芸能・文化に特化し、6年間ゆったりと学べるような中・高一貫教育もあってよい。必ずしも難関大学を目指すことだけが人生ではない。**

■学校教育法の一部を改正する法律案に対する附帯決議
(平成10年5月22日衆議院文教委員会)(抄)

- 中高一貫教育の内容は、「ゆとりのある」学校生活の中で、児童・生徒の個性や創造性を大いに伸ばすという本旨にのっとり検討され、受験準備に偏したいわゆる「受験エリート校」化など、偏差値による学校間格差を助長することのないように十分に配慮すること。
- 中高一貫教育を行う学校では、入学者の選抜に当たって学力試験は行わないこととし、学校の個性や特色に応じて多様で柔軟な方法を適切に組み合わせて入学選抜方法を検討し、受験競争の低年齢化を招くことのないように十分配慮すること。

■中高一貫教育の特色

教育活動の特色について(公立)



(出典) 中央教育審議会初等中等教育分科会学校段階間の連携・接続等に関する作業部会「中高一貫教育制度に関する主な意見等の整理」(H23.7)

■中高一貫教育の成果

中高一貫教育を導入したことによる成果(公立)



(出典) 中央教育審議会初等中等教育分科会学校段階間の連携・接続等に関する作業部会
「中高一貫教育制度に関する主な意見等の整理」(H23.7)

広島県における今後の高等学校教育の在り方を検討する協議会委員名簿

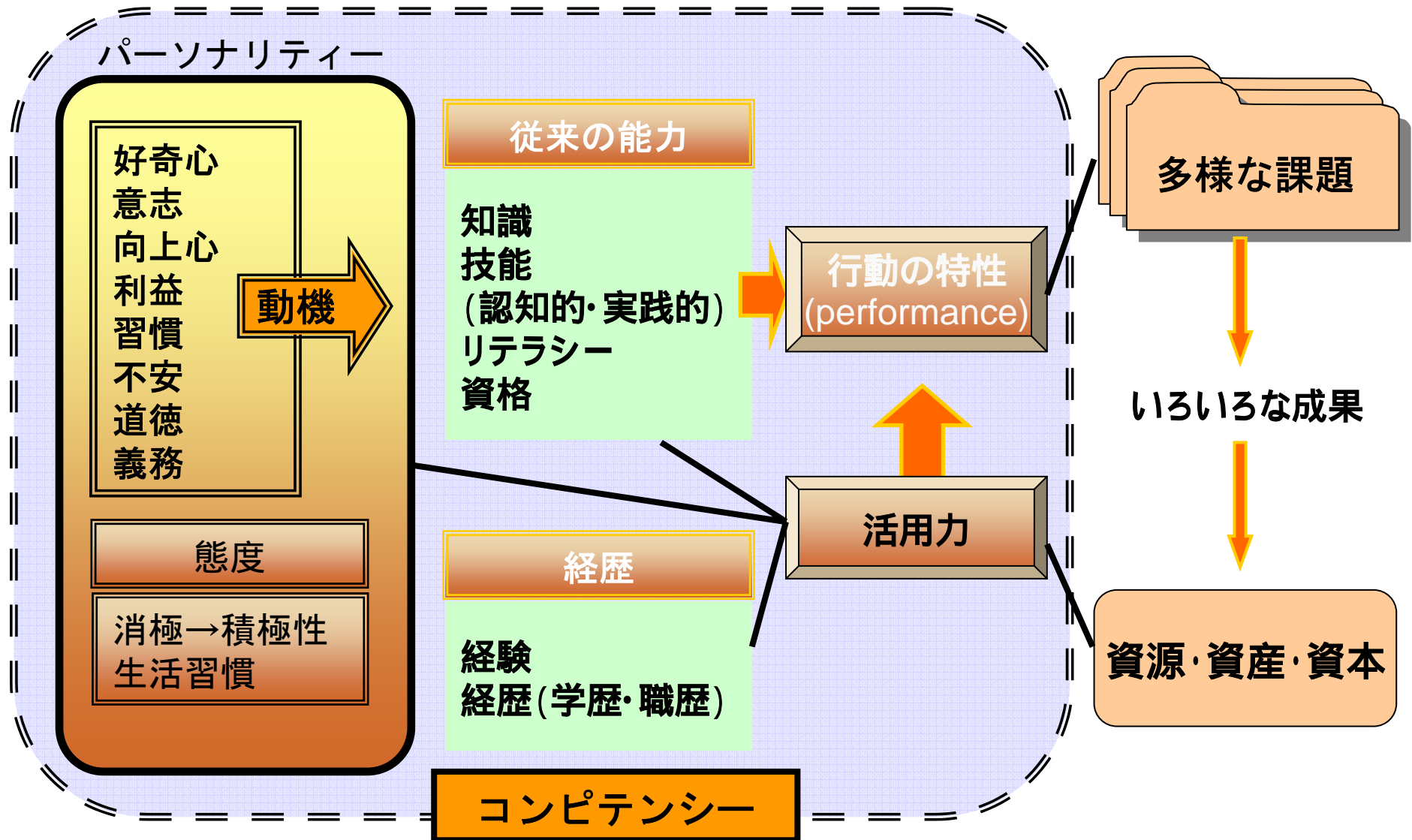
(敬称略, 五十音順)

氏 名	役 職 等	備 考
青木 暢之	株式会社中国放送代表取締役社長	
赤岡 功	県立広島大学学長	
伊藤 敬之	マツダ株式会社人事室主幹	
奥田 正和	世羅町長	平成24年11月13日から
加藤 千政	広島県PTA連合会顧問	
川野 祐二	エリザベト音楽大学学長	
吉川 信政	福山市教育委員会教育長 (広島県都市教育長会会長)	
古賀 一博	広島大学附属中・高等学校長	
小村 和年	呉市長	
牛来 千鶴	株式会社ソアラサービス代表取締役社長	
坂越 正樹	広島大学理事・副学長	会長
佐々木 寛	広島市立中広中学校長 (広島県公立中学校長会会長)	
砂原 文男	広島市教育委員会学校教育部指導担当部長	
武田 哲司	学校法人武田学園理事長 (広島県私立中学高等学校協会会長)	
寺西 玉実	絵本牧場ごんぼ館長	
富永 健三	広島県議会議員	
中川 和義	広島県指導農業士会会長	
長田 克司	オオアサ電子株式会社代表取締役社長	
西井 裕昭	株式会社西井製作所代表取締役社長	職務代理者
二見 吉康	安芸太田町教育委員会教育長 (広島県町教育長会会長)	
前 眞一郎	広島県立・園北高等学校長 (広島県公立高等学校長協会会長)	
三好 久美子	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター副代表理事	
毛利 葉	広島県高等学校PTA連合会会長	
山口 寛昭	前世羅町長	平成24年10月30日まで

広島県における今後の高等学校教育の在り方を検討する協議会スケジュール

区分	時 期	協 議 内 容
第 1 回	平成24年 4 月26日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方について ・ 本県を内外から支える人材 ・ 生徒が高等学校で身に付けるべき力
第 2 回	平成24年 5 月31日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方について ・ 高等学校教育の目指す姿
第 3 回	平成24年 7 月23日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県を支える人材の育成と今後の高等学校教育の在り方について ・ 高等学校教育の目指す姿
第 4 回	平成24年 9 月 7 日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県における今後の高等学校の在り方について ・ 今後求められる高等学校
第 5 回	平成24年10月15日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県における今後の高等学校の在り方について ・ 国・公・私立高等学校の役割
第 6 回	平成24年11月26日(月)	※ 広島県における今後の高等学校教育の在り方について（中間まとめ）の検討
第 7 回	平成24年12月27日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県における今後の高等学校の在り方について ・ 県立高等学校の配置の方向性
第 8 回	平成25年 1 月30日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県における今後の高等学校の在り方について ・ 県立高等学校の配置の方向性
第 9 回	平成25年 2 月20日(水)	※ 広島県における今後の高等学校教育の在り方について（最終報告）の検討

■ 「コンピテンシー」とは



■DeSeCoによる「キー・コンピテンシー」について

コンピタンス：ある特定の文脈における複雑な要求に対し、認知的・非認知的側面を含む心理－社会的な前提条件の結集を通じて、うまく対応する能力

3つのカテゴリー	キー・コンピテンシーの具体的な内容	当該能力が必要とされる背景等
①相互作用的に道具を用いる	○言語、シンボル、テキストを相互作用的に用いる	社会や職場において十分に役割を果たしたり、他人との効果的な対話に参画する上で、核となる手段（ツール）。
	○知識や情報を相互作用的に用いる	現代社会におけるサービスや情報部門の重要性や知識経営の必要性の増大のなかで、情報や知識を双方向で使いこなす力が必須に。
	○技術を相互作用的に用いる	テクノロジーのイノベーションは、職場の内外にかかわらず個人に新しい能力を要求
②異質な集団で交流する	○他人といい関係を作る	社会の安定や統合のためだけではなく、情動知能が強調されるなど企業や経済が変化するなかで経済的に成功する上でも重要な能力に。
	○協力する。チームで動く	多くの需要や目標は一人では達成できず、グループのなかで同じ目的を共有し、協力する必要。
	○争いを処理し、解決する	家庭、職場、より大きなコミュニティで生じる紛争は、社会の現実の一側面で、人間関係に不可避の存在。
③自律的に行動する	○大きな展望の中で活動する	自律的に行動することは、社会の発展に効果的に参加するためだけではなく、職場や家庭や社会生活など人生の様々な側面のそれぞれをうまくこなす上でも必要。
	○人生計画や個人的プロジェクトを設計し実行する	
	○自らの権利、利害、限界やニーズを表明する	

(明石書店 「キー・コンピテンシー ～国際標準の学力をめざして～」等を参考に作成)

■国際社会の第一線で活躍できるグローバルリーダーを育成する教育の実施

国内トップクラス・世界水準の事例

区 分	国際バカロレア全校導入		生徒の多様性	教員の多様性	全寮制	特記事項	進学実績	
	MYP	DP						
国際バカロレア	東京学芸大学附属 国際中等教育学校		—	{ 1学年:約120人 帰国生:約4割 }	—		イマージョン授業 (中学から)	海外大学:5人 (国公立大学:24人)
	立命館宇治 中・高等学校	—	(コース設置)	{ 1学年:約350人 (うちDPコース約50人) 帰国生:約2割 }	(ネイティブ)教員:約2割	(寄宿舎あり)	TOEFL受検義務化 留学コース設置	海外大学:56人 (国公立大学:3人)
	加藤学園暁秀 中・高等学校	(コース設置)	(コース設置)	{ 1学年:約210人 (うちDPコース約20人) 帰国生:約1割 }	(ネイティブ)教員:約1割		短期留学の義務化 (5年次)	海外大学:6人 (国公立大学:51人)
全寮	海陽中等教育学校	—	—	{ 1学年:約120人 }	—	(企業職員派遣)	チューター制・少人数 全人教育・しつけ教育	海外大学:15人 (国公立大学:34人)
ナショナル インター ナショナル	A S I J			(帰国生・外国人子弟)			40カ国以上が在籍	多くはアメリカの大学 (進学率ほぼ100%)
	I S A K			(海外留学生:約半数)	(世界中から採用)		少人数・秋入学 デザイン教育 UWC加盟予定	(H26.9開校予定)
世界	海外全寮制学校 (イートン校)	—	—	{ 1学年:約220人 }			全人教育 少人数制	ケンブリッジ大・オックス フォード大 計78人
県内	広島 A I C J 中・高等学校	—	(コース設置)	{ 1学年:約140人 (うちDPコース数人) }	(ネイティブ)教員:約2割	(Englishハウスあり)	ニュージーランド校 への編入可能 イマージョン授業(中学)	海外大学:3人 (国公立大学:64人)

MYP ~ Middle Years Program(11歳~16歳), DP ~ Diploma Program(16歳~19歳)

A S I J ~ American School in Japan ~ 日本初 & 最大規模のインターナショナルスクール(帰国生, 大使館関係者, アメリカ企業駐在員子弟など40カ国以上1,400人以上在籍)

I S A K ~ International School of Asia, Karuizawa ~ 少人数制・全寮制のインターナショナルスクール(ミッション:新たなフロンティアを創り出し変革を起こせるリーダーの育成)